

2021年度・築山宏樹研究会（政治過程論）

募集要項

1. 研究会の概要

本研究会では、統計学などの科学的方法を用いて、現実政治のプロセスを実証的に明らかにすることを目的とした政治過程論について学びます。特に、研究会では、統計解析ソフトを用いて計量分析を実行する技術を一から習得することを目指します。近年、根拠に基づく政策立案、ビッグデータ、人工知能などの言葉に代表されるように、データに基づく説明・予測・意思決定の重要性が増大しており、政治学の領域でも、計量分析を用いた科学的研究の発展が著しいところです。このうち政治過程論という研究分野では、政治制度・政治行動・公共政策などの現実政治のプロセスの分析を通じて、なぜ政治・政策がうまく機能しないのか、政治・政策をよりよく機能させるためにはいかなる方策が必要なのか、といった問題について、データに基づく科学的推論を行うことが目指されます。

研究会では、上記のような政治過程論の理論と方法について学びながら、各自の問題関心に従って、実証的な研究論文の執筆を行ってまいります。計量分析などの研究手法の習得に不安を抱く方もいるかも知れませんが、研究には統計解析ソフトを用いますので、数行程度の定型の文字列を書くことさえできれば、基本的な分析は一通り行えます。その意味では、計量分析を学ぶことに特別な素養は一切要りません。なお、計量分析については一から指導を行いますので、予備知識は不要です。

また、個人研究のテーマは、広く政治過程に関わる内容であれば、有権者や政治家の行動分析でも、公共政策の効果の推定でも、法制度の影響の国際比較でも、なんでも自由です。研究対象・地域・時代も問いません。現実政治のメカニズムに関心がある方、科学的方法を用いて研究を行いたい方、データ分析スキルを身に付けたい方など、幅広い関心や学習意欲を持った学生の応募をお待ちしております。

2. 選考手続き

本研究会は、新規開講になります。応募を希望される方は、1月31日までに下記の担当者のメールアドレス宛に、次頁に示す応募書類一式を送付ください（2月1日以降の日付で着信した応募書類は受け取りません）。書類を提出された方に対して2月4日（第一次統一選考日）に、オンライン上で個別面接による選考を行います。面接の詳細については、応募メールへの返信でお伝えします。なお、合格発表も、メールでのご連絡とさせていただきます。ご質問・ご相談も下記のメールアドレスにて随時受け付けております。

○E-mail：tsukiyamaseminar2020@gmail.com

○応募締切：1月31日

○募集人数：15名程度

○応募書類：

●課題 1：志望動機

本研究会を志望する動機を、自己紹介や進路希望を含めて、A4・2枚以内で述べなさい。

●課題 2：研究計画

本研究会で研究したい政治・政策・社会問題について、参考文献・資料などを用いつつ、下記の内容に従い、A4・5枚以内（参考文献含む）で述べなさい。取り上げるテーマは、政治・政策・社会問題であれば、研究対象・地域・国内／国際問題など条件は問わない。

- 課題 1・2ともに、冒頭にタイトル、学部学科、学籍番号、氏名を記載した上で、二つの課題を一つのファイルにまとめて、「応募書類_氏名」というタイトルの PDF 形式の書類を作成しなさい（_は半角アンダーバー、氏名には自身の氏名をスペースなしで入力する）。

研究計画の内容

1. 研究の意義

どのような政治・政策・社会問題について研究をしたいのか。また、なぜそのテーマについて研究することが社会にとって重要なのか。問題の背景をまとめなさい。

2. 問題の考察

そのような政治・政策・社会問題が発生する原因はどこにあるのか。また、問題解決のためにいかなる解決策を講じることが必要なのか。問題の考察をまとめなさい。

※その他、文末には、研究計画内で参照・引用した参考文献について、まとめておくこと。

3. 研究会の進め方

- ・ **3年**：計量分析の方法について一から学びます。また、計量分析を用いた政治学の論文を輪読することを通じて、実証的な研究論文の執筆方法を身に付けます。その上で、各自の問題関心に従って、個人研究として三田祭論文の執筆を行います。
- ・ **4年**：個人研究として卒業論文を執筆してもらいます。
- ・ **合宿**：夏期休暇中に全員参加で1泊2日の合宿を行います（感染症の状況によってオンラインの開催となりうる）。
- ・ **講義**：研究会とは別に、3年次春学期に統計情報処理に関する講義を履修して頂きます。研究会は、この講義の履修を前提に進めますので、木曜日の午後は研究会のために空けてください。

上記の下線部については、提出または参加が必須となります。ただし、それ以外の義務はありません。研究会を通じて、社会的需要の高まっているデータ分析技術の習得をサポートするとともに、受講生には、科学的研究の面白さや、科学的発見に基づく問題解決の有用性を伝えていければと考えています。